

2025年度ゼミ（演習1）要覧

担当者名	井手上和代
演習テーマ	アフリカ「経済開発」のいま
	<p>本演習はアフリカの経済および同地域の開発課題についての理解を深め、3回生以降のより専門的な学習と卒業論文の執筆に向けた学問的関心を育むことを目的とします。</p> <p>アフリカでは、多くの人々がインフォーマルセクターと呼ばれる部門で経済活動を営んでいます。インフォーマルとはいえども、その経済活動の実態はダイナミックで、人々の普段の生活を支える重要な主柱であり、アフリカを理解する上で無視できないものです。本演習では、こうしたアフリカの人びとが営む普段の経済活動の実態を知り、理解するとともに、「開発とは何か?」という古くて新しい問い合わせについても時間をかけて考えていきます。</p>
演習の内容	<p>アフリカの人びとはどのように生計を立てているのだろう？アフリカはなぜ今も「貧困」だと言われることが多いの？そもそも「貧困」ってなに？など、受講生には本演習をはじまりとして、アフリカ経済にまつわるこのような疑問を自分なりに理解し、学術的に説明ができるようになってほしいと思います。</p> <p>※3年次以降の演習2では、卒業論文執筆に向け、Excelや統計分析ソフトを用いたデータ分析の方法を学びます。本演習の履修にあたっては、その点も念頭に置いてください。</p> <p>※演習1～3を通じて、学生による発表と討論に加え、開発協力に携わる実務者や研究者など外部講師を招いた講義・交流も予定しています。</p>
テキスト・参考書	<p>◆以下は、2024年度の例です。ゼミ生のテーマや関心に応じて、変更することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠藤貢・阪本拓人（2022）『ようこそアフリカ世界へ』昭和堂 ・小川さやか（2016）『「その日暮らし」の人類学：もう一つの資本主義経済』光文社 ・デヴィッド・グレーバー（2020）『ブルシット・ジョブ：クソどうでもいい仕事の理論』
成績評価の基準	<p>授業内の発表—30%（担当章についての発表） 授業への出席・貢献—30%（討議への積極的な参加を評価する） レポート—40%（テキストの章から一つを選び、それに関するレポートを執筆・提出する）</p>
校外実習	（ 2026年度は実施しない ）

校外実習を実施する場合、実習地・時期、個人負担額	2027年度（春学期）に校外実習を実施する可能性があります。 実習先としては、国外（ケニア・ナイロビまたはモーリシャス）を想定していますが、現地情勢や引率者の都合等により、国内（熊本）となる場合もあります。 ※2026年度は実施しないため、この点を踏まえたうえで応募してください。 ※本演習で、校外実習は日頃の学びの延長として位置づけているため、単なる見学や旅行感覚での参加とは趣旨が異なります。そのため、アフリカ地域への関心や、継続的な学びに意欲のある方を歓迎します。
選考方法	・小論文の提出および面接 ※面接は5月26日～31日の間に実施予定です。希望者は小論文と併せて、面接日時も確認してください。
小論文 (テーマ、書式・枚数、提出期限・方法)	【内容】 自己紹介、志望理由、関心のあること、今後学びたいことを記述してください。 【書式・分量】 Word文書、2000字程度。 【提出方法・期限】 以下のメールアドレス宛に、5月25日（日）までに送付してください。
メールアドレス	ideue@k.meijigakuin.ac.jp
説明会・オフィスアワー	■ オンライン説明会（Zoom）： 5月9日（金）昼休み Zoomリンク： https://us02web.zoom.us/j/88518601079 ■ 対面説明会： 5月19日（月）、5月22日（木）昼休み 場所：8号館4階 井手上研究室
履修済・履修中であることが望ましい授業	※「アフリカ地域研究」を履修することが望ましい。
2026・2027年度に在外研究等で演習を開講しない可能性	あり（2026・2027年度）/なし
認定留学期間中（演習2・3開講学期中の遠隔指導*）	可 / 否 / その他()
備考	日頃からメディアや新聞、文献などを通じて、情報を得る習慣を身につけてください。特に、アフリカに関心のある学生は、海外メディア・英語文献などからも情報・知識を得ることをおすすめします。百聞は一見に如かず、できればアフリカ地域に足を運んでみてください。

*「遠隔指導」については、「演習1」選考に関するガイダンス資料を確認のこと。